



# 絆プロジェクト

～ 日常実践の充実を目指した教育活動へのチャレンジ ～

環境

ICT

体力向上

国際理解

キャリア

平成 28 年 9 月 27 日発行  
No 9 文責 小林

環境

## ザリガニ堆肥の検証 Part II

① <収穫量>  
左がザリガニ堆肥



② <大きさ>  
左がザリガニ堆肥



先日、途中経過を報告した「ザリガニ堆肥」ですが、最終的な検証結果がでたので報告します。「枝豆」「イグサ豆」「ほうれん草」の3種類で比較検証を行い、途中経過では、どの作物でもザリガニ堆肥入りの方が育ちが良く、葉の色や大きさにも大きな差が見られました。そこで今回は、収穫量や味など、農作物として最も重要なポイントを検証してみました。

	丈	莖の直径	実の数(1株)	根の張り具合	味
枝豆(堆肥)	51cm	7mm	37	50cm	○
枝豆(なし)	40cm	5mm	21	25cm	○
イグサ(堆肥)	65cm	4mm	21	20cm	◎
イグサ(なし)	27cm	3mm	5	10cm	△

(\*ほうれん草は、台風と長雨の影響で残念ながら収穫には至りませんでした。)

枝豆、イグサ豆共にザリガニ堆肥入りの方が、前回の報告時と同様、生長がよく実の付き具合もよいという結果が出ました。問題の味は、枝豆に関しては、収穫量には差があったものの、共に天候不良のため実入りが悪く、大きな味の差は感じられませんでした。一方、イグサ豆は、ザリガニ堆肥入りの方が実が厚く、甘みを強く感じました。堆肥なしの方は、筋が多いため若干堅く、実もやせていて野性的な味がするなど、顕著な差が出たと言えます。

総合的に判断すると、やはりザリガニ堆肥は植物の生長に効果があり、作物を育てる上では有効であるという結果がでました。来年度は、子どもたち自身に検証をさせることで、豊成小学校の環境サイクルが1つでき上がります。少しずつ内容が整備されて形になっていくことは、私達にとっても嬉しいことです。

ICT

## ICT活用講座 Part II

23日(金)の放課後に「第2回 ICT活用講座」が行われました。

今回のテーマは「デジタル教材の活用法」。業者テスト等に付いているCDの主な機能や操作方法など、明日からでも活用できそうな内容だったので、大変興味深く、受講された先生方からも「へえ～」と感嘆の声があがっていました。また、実演することで、とても分かりやすく、何より同僚が講師ということもあり、気軽に質問できるのがこの講座の素晴らしいところです。

その他にも前回行った実物投映機の活用方法の応用編として、顕微鏡を接続した投影方法を紹介しました。肉眼では確認できない世界が大きな画面に広がることで、今までは個々でしか確認できなかったものが、全体で共有しながら確認ができるようになり、より活発な交流を促すツールとして、とても有効であることが確認できました。(接続方法も簡単なので、興味のある先生はICTチームまで)

次回は、実際に授業の中で活用している場面を公開してくれるようで、より実践的な講座になりそうです。楽しみにしててください！

